



2025年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月4日

上場会社名 株式会社フェリシモ 上場取引所 東
コード番号 3396 URL <https://www.felissimo.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 矢崎 和彦
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画室長 (氏名) 宮本 孝一 TEL 078-325-5555
半期報告書提出予定日 2024年10月11日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年3月1日～2024年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	14,254	△5.3	△15	—	16	△53.9	△24	—
2024年2月期中間期	15,056	△6.3	△116	—	35	△95.2	△46	—

(注) 包括利益 2025年2月期中間期 △48百万円 (—%) 2024年2月期中間期 19百万円 (△96.9%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	△3.51	—
2024年2月期中間期	△6.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	28,404	—	18,787	—	—	66.1
2024年2月期	29,064	—	18,943	—	—	65.2

(参考) 自己資本 2025年2月期中間期 18,787百万円 2024年2月期 18,943百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2025年2月期	—	0.00	—	—	—
2025年2月期（予想）	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,205	5.4	369	—	450	—	385	—	54.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有
新規 一社（社名）、除外 1社（株式会社cd.）

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年2月期中間期	10,043,500株	2024年2月期	10,043,500株
2025年2月期中間期	2,920,914株	2024年2月期	2,920,914株
2025年2月期中間期	7,122,586株	2024年2月期中間期	7,122,586株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間 (2024年3月1日～2024年8月31日) におけるわが国の経済は、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復が期待されました。一方で、欧米における高い金利水準の継続や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっているほか、物価上昇、金融資本市場の変動などの影響に十分注意する必要があり、先行きは不透明な状況となりました。

このような経営環境の中、当社グループは経営理念である「しあわせ社会学の確立と実践」のもと、長期的視点から「顧客基盤の拡大」、「顧客との継続的な関係育成」、「第2の収益の柱の育成」の3点に注力し持続的な成長基盤を確立することを目指した経営活動に取り組んでおります。

対処すべき課題の進捗におきましては、定期便事業は、ライフステージやライフスタイルの転換点における顧客接点を構築し、そこで出会う生活者の一定数を積層的に顧客として定着させる「積層型ゲートウェイ」の開発として、自然災害に対し自治体やNPO法人、企業、生活者などのみんなで今できることを始める、自助と互助、防災支援ネットワークの構築を目指す「もしもしも」プロジェクトを推進し、新たな新規顧客獲得手法に取り組みました。また、「次世代顧客開発プログラム」として、生活者がお買い物を通じてしあわせの贈り手になれる活動「GO! PEACE!」や、新社会人向けライフスタイルメディア「このごろ」などを中心に、新たな顧客層の開拓や顧客の年齢層の拡張にも取り組みました。それぞれに一定の成果はあったものの、その他の新たな顧客獲得手法の開発や、顧客年齢層の拡張といった新たな領域の開発が当初の計画よりも遅延している状況となりました。新規事業分野は、「第2の収益の柱の育成」として、計画通り2024年4月に神戸ポートタワーの運営事業を開始いたしました。

当中間連結会計期間の概況といたしましては、中核事業である定期便事業におきましては、前述の通り新たな顧客獲得手法や新たな領域の開発が遅れたことに加え、潜在顧客へのアプローチが不十分だったことによりECサイトへの流入数が減少し、新規顧客獲得数が減少しました。この結果、のべ顧客数が前年同期を下回り、売上高が減少いたしました。

新規事業分野におきましては、当社の定期便プラットフォームに取引先事業者が出品・出稿できる「FELISSIMO PARTNERS (フェリシモパートナーズ)」事業は、継続型商品が好調に推移したことにより売上高が増加いたしました。また神戸ポートタワー事業は、ゴールデンウィークの大型連休、夏期間で国内外より多数の観光客が来場し、来場者数が計画値を上回り、オリジナル商品販売や飲食事業の収入も好調に推移しております。

これらの活動の結果、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は14,254百万円 (前年同期比 5.3%減) となり、売上総利益は7,726百万円 (前年同期比 4.1%減) となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、定期便事業において、広告並びにダイレクトメールで発生する費用の削減、既存顧客の属性別カタログ配布の適正化を図り広告費用は低減しました。また出荷件数の減少によって商品送料などが減少したことや、送料単価が低い配送ルートを採用、梱包資材の改良などにより物流関連費用も低減し、7,742百万円 (前年同期比 5.2%減) となりました。これらの結果、営業損失は15百万円 (前年同期は営業損失116百万円) となりました。

営業外損益では、受取利息などによる営業外収益を65百万円計上した一方で、為替差損などによる営業外費用を33百万円計上したことにより、経常利益は16百万円 (前年同期比 53.9%減) となりました。投資有価証券評価損などの特別損失を計上したことにより、税金等調整前中間純損失は19百万円 (前年同期は税金等調整前中間純利益35百万円) となり、親会社株主に帰属する中間純損失は24百万円 (前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失46百万円) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況)

当中間連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ659百万円減少し、28,404百万円となりました。これは主に現金及び預金が115百万円及び売掛金が478百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ503百万円減少し、9,617百万円となりました。これは主に支払信託が518百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ155百万円減少し、18,787百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純損失を24百万円計上したこと及び利益剰余金の配当106百万円を行ったことにより利益剰余金が131百万円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて143百万円減少し、7,589百万円となりました。

営業活動の結果増加した資金は553百万円(前年同期は148百万円の減少)となりました。これは主に減価償却費の計上422百万円及び売上債権の減少478百万円に対し、仕入債務の減少512百万円となったことによるものであります。

投資活動の結果減少した資金は587百万円(前年同期比 824.9%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出256百万円及び無形固定資産の取得による支出252百万円となったことによるものであります。

財務活動の結果減少した資金は109百万円(前年同期比 0.3%増)となりました。これは主に配当の支払いによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期通期の業績予想につきましては、2024年4月5日に開示いたしました前回予想からの修正はありません。当社の事業活動や経営成績に影響を及ぼすおそれが生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位 : 百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,063	8,947
売掛金	2,776	2,298
信託受益権	226	208
商品	4,318	4,316
貯蔵品	75	43
未収還付法人税等	32	—
その他	482	549
貸倒引当金	△36	△34
流動資産合計	16,939	16,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	4,419	4,500
土地	1,950	1,950
その他 (純額)	433	365
有形固定資産合計	6,803	6,816
無形固定資産	1,865	1,821
投資その他の資産		
投資有価証券	2,225	2,194
長期預金	1,000	1,000
その他	230	242
投資その他の資産合計	3,456	3,437
固定資産合計	12,124	12,075
資産合計	29,064	28,404
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,025	1,026
電子記録債務	1,981	1,986
支払信託	1,658	1,139
未払金	1,359	1,269
未払法人税等	1	31
賞与引当金	151	152
その他の引当金	83	85
その他	716	843
流動負債合計	6,977	6,536
固定負債		
退職給付に係る負債	2,858	2,782
その他	285	299
固定負債合計	3,143	3,081
負債合計	10,121	9,617

(単位 : 百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,868	1,868
資本剰余金	4,841	4,841
利益剰余金	15,060	14,928
自己株式	△2,862	△2,862
株主資本合計	18,908	18,776
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	25
繰延ヘッジ損益	6	△19
退職給付に係る調整累計額	4	4
その他の包括利益累計額合計	34	10
純資産合計	18,943	18,787
負債純資産合計	29,064	28,404

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位 : 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
売上高	15,056	14,254
売上原価	7,002	6,528
売上総利益	8,054	7,726
販売費及び一般管理費	8,171	7,742
営業損失 (△)	△116	△15
営業外収益		
受取利息	30	48
受取家賃	4	3
為替差益	96	—
受取補償金	1	1
その他	19	12
営業外収益合計	151	65
営業外費用		
為替差損	—	33
その他	0	0
営業外費用合計	0	33
経常利益	35	16
特別損失		
投資有価証券評価損	—	31
関係会社株式評価損	—	4
特別損失合計	—	36
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 (△)	35	△19
法人税、住民税及び事業税	6	5
法人税等調整額	75	—
法人税等合計	81	5
中間純損失 (△)	△46	△24
親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△46	△24

(中間連結包括利益計算書)

(単位 : 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年 3 月 1 日 至 2023年 8 月 31 日)	当中間連結会計期間 (自 2024年 3 月 1 日 至 2024年 8 月 31 日)
中間純損失 (△)	△46	△24
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	2
繰延ヘッジ損益	33	△25
退職給付に係る調整額	21	△0
その他の包括利益合計	66	△23
中間包括利益	19	△48
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	19	△48

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 (△)	35	△19
減価償却費	394	422
関係会社株式評価損	—	4
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	31
引当金の増減額 (△は減少)	8	1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	13	△76
受取利息及び受取配当金	△30	△48
為替差損益 (△は益)	△82	55
売上債権の増減額 (△は増加)	330	478
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△45	33
仕入債務の増減額 (△は減少)	△808	△512
未払金の増減額 (△は減少)	△5	31
その他	26	18
小計	△164	420
利息及び配当金の受取額	42	88
法人税等の還付額	—	65
法人税等の支払額	△27	△20
営業活動によるキャッシュ・フロー	△148	553
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,451	△1,688
定期預金の払戻による収入	2,421	1,622
有形固定資産の取得による支出	△127	△256
無形固定資産の取得による支出	△392	△252
投資有価証券の取得による支出	△500	△500
投資有価証券の償還による収入	—	500
その他	△13	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△63	△587
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△2	△2
配当金の支払額	△106	△106
財務活動によるキャッシュ・フロー	△109	△109
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△320	△143
現金及び現金同等物の期首残高	10,143	7,733
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,823	7,589

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。